

甲州市立松里中学校



松風祭の様子

学校教育目標

『自ら求め、学び、拓く生徒の育成』

本校は、甲州市北西に位置し、笛吹川を隔てて山梨市に隣接しています。昭和22（1947）年に旧松里村をそのまま学区とし、松里村立松里中学校が創立されました。学区は、井尻・松里小学校の2つの小学校区を擁し、社会で幅広く活躍する卒業生を輩出しています。純真で堅実な風土であり、保護者や家族の教育熱も高く、生徒・保護者ともにまとまりのある学校です。

“松の里みち、秩父往還の古みちあり”といわれ、歴史的由緒ある神社・仏閣が多く存在しています。代表的な仏閣として、郷土の英雄、武田信玄公ゆかりの「恵林寺」「放光寺」などがあります。また、地域の産業として、「枯露柿」が全国で有数の産地であり、“山梨のころ柿”“松里のころ柿”として全国に出荷されています。シーズンになると紅葉と共に橙色の柿のカーテンが里を彩ります。秋の陽だまりを受け、ふっくらと行儀良く並ぶ風物詩を見ようと、全国から観光客が訪れます。毎年文化の日あたりから収穫が始まり、12月中旬あたりまで、丁寧に干されます。こうした松里の人々が連綿と受け継いできた手仕事を体験学習に取り入れるなどして、地域の方々との交流を深めています。

地域の特性を最大限に生かす教育活動を基盤に、産業や歴史、伝統・文化等を各教科等の学習素材として開発・活用し、郷土学習の一環として積極的に取り入れるなど、様々な取組を通して他者を思いやる心、未知なる時代をたくましく生き抜く心の育成を目指します。また、持続可能な社会の担い手として、柔軟で豊かな創造力、そして適切な判断力や表現力を身につけるための教育活動を本年度も力強く推進して参ります。